

●PBL の課題について

五十嵐太郎

○いずれの課題の成果も、雑誌に収録することを目標とする。

* 磯達雄さんからの課題

- ・ 次回来校する 12 / 22 に発表。

* 仙台の文化・デザインに関するレビュー

- ・ 対象とするのは、2010 年 10 月から 2011 年 2 月頃までのトピック。
(建築、デザイン、展覧会、演劇、映画、小説、講演、ライブ、番組など)
- ・ 1 / 12

* 書店フィールドワーク

- ・ 以下を参照。

○書店フィールドワーク課題について

* 雑誌をつくるにあたって、まずはそれをとりまく環境を改めてよく考えることが必要。

- ・ 仙台の文化マップとして。あるいは、雑誌が置かれる場のリサーチをかねて。
- * それぞれの立場から、おもしろいと思う、お気に入りの仙台の本屋や古書店を選び、その特徴について報告してください。
- ・ 場合によっては、図書館や閲覧スペースなど、本の空間も可。
- * 雰囲気、立地、店員、本のセクション、客層、専門性、値段、売上げ、経営方針、空間、デザイン、規模、歴史、有名性、エピソードなど。
- ・ 独自に切り口を決めてもよい。
- * 東北大学の学生は、必ず誰か一名が BOOK を選ぶこと。

- ・ 11 / 18 永江さんのレクチャーと質疑の後に発表。

共通の形式として、A4 用紙一枚に表現してください。+αは、自由。なくてもよい。

- ・ 12 / 8 阪根さんのレクチャーと質疑の後に発表。

追加調査をしたもの。

* 注意事項

- ・ 最初の段階では、外観写真のみでもかまわない。
- ・ 室内や本のスペースは無断で撮影すると、もめる可能性がある。
- ・ 図書館だと、誰が何の本を読んでいるか映り込むことを嫌がる。
- ・ いずれ店長へのインタビューなどを申し込む。

* 以下、12/8に来校する阪根さんから、課題についてのコメントです。

【ポイント】

・他店との差別化をどのように計っているか

(例えば、大型書店でジュンク堂と紀伊國屋を比べれば一目瞭然です。その他、ナディフ等のセレクトショップの方がより趣向が店によって違うのでチェックすれば面白いと思います。この前の建築系ラジオで荒田さんも言ってましたが、本はどこでも買えるので、この店でしか買えない、この店しかない、という特長をいかに出すかが重要だと最近つくづく思います。)

・自分がその店で本を買いたいと思うかどうか

(本のセレクト、店の雰囲気など。幅さんは店の雰囲気をすごく大切にしています。その雰囲気によって本当に買いたい、買いたくないという気持ちの変化がでるのかどうかを自分自身の感覚で確認してみるといいと思います。)

・「えっ、こんな本売ってるの？」と驚く店があるかどうか

(こういう店はセレクトショップでも意外とないです。だいたいこんなもんか、というのが正直な感想です。)

・本がちゃんと売れてそうかどうか

(これは僕の職業柄かもしれませんが、一番重要だと思います。選書するにしても、いわゆるニューアカ系の本を集めればそれなりの雰囲気にはなりますが、これが売り上げにつながるかと言えば、今はなんとも言えません。また永江朗さんの『本の現場』で紹介されているセレクトショップを回ったことがあるのですが、例えば『J STYLE BOOKS』という書店を永江さんは評価していたのですが、実際行くとちょっと経営的には難しいんじゃないかと感じました。書店を紹介している本や雑誌は基本的に悪く書かないので、実際行くと「えっ、こんなもんなの？」とがっかりすることも多々あります。その点を厳しくチェックして、「いい本を置いていて、しかもちゃんと売れてそう」というお店を見つければ、それはものすごく勉強になると思います。僕自身も(笑)。

・その他

受講生が、どういったポイントで書店をチェックしたかを逆に聞いてみると面白いかもしれません。

以上ざっとあげてみました。参考まで。

ジュンク堂書店新宿店／阪根正行